

第4回 予算決算委員会

令和6年4月2日（火） 5階 議場	開 会 10時58分 閉 会 11時27分
----------------------	--------------------------

午前10時58分 開会

○委員長（棚町 潤君）

皆さん、こんにちは。予算決算委員会にお集まりいただきありがとうございます。よろしくお願いします。

では早速、ただ今から令和6年第4回予算決算委員会を開会したいと思います。この後の予定も詰まっておりますので、委員長挨拶というのは省略させていただきます。

早速議題に入らせていただこうと思います。

○委員長（棚町 潤君）

はじめに、委員会活動について議題といたします。

まず趣旨をちょっと説明させていただこうかなと思います。

前回の3月12日の委員会にて、令和6年における委員会の活動テーマ取り組みの委員長（案）を提示させていただきました。この案に対しまして3月19日までに御意見を頂戴する形をとらせていただきましたが、御意見がありませんでしたので、本日はこの委員長（案）を私が考えさせてもらったテーマをベースに令和6年度活動させていただきたいなと思っております。

本日はこの委員長（案）をベースに、具体的に令和6年に予算決算委員会が取り組む活動を皆さんにお諮りさせていただきたいと思いましたのでお集まりいただきました。

また、先ほど議会運営委員会にて受理しました議長諮問にもありましたように、委員会で取り組む内容と目的を決定し、本委員会で調査研究を重ねて、令和7年1月までに目的を達成したいと思っておりますので御協力をお願いしたいなと思います。

では、予算決算委員会にまず議長よりいただいた諮問からお話しさせていただこうかなと思います。議長諮問は皆さんのお手元には届いてましたね。議長から諮問を頂いて議会運営委員長から議会運営の課題について審議するよう付託されました。ちょっと委員会がそれについて読ませていただきます。

委員会の活動については閉会中の継続審査を基本に、課題（テーマ）に対して計画性を持って活発に取り組み、議会の最高規範である議会基本条例に準じた委員会活動に努め、提案、要望など積極的に取り入れるなど委員会での取り組みを行うこと。また、議会および常任委員会で主権者教育についてどのような取り組みができるか検討の上、主権者教育への影響力や支援を明確にして取り組むことというこの大きく二つの課題について取り組むようにという諮問が出ているということになります。

まず上の委員会力アップについては予算を要望していく形で、委員会の活動の委員会力アップに取り組ませていただこうかなと思っております。下の主権者教育についてですけど、予算決算委員会でちょっとどういったことができるのかというのが、まだ思いつかないんですけど、またそういうことも踏まえて皆さんとちょっと議論をさせてもらう時間を設けさせていただこうと思いますので、予算決算委員会で主権者教育なかなか難しいところがあると思いますけれど、ちょっと一度そういう場は設けさせてもらおうと思いますので、また御意見を頂戴したいなと思います。

ここまでで何か質問とかあれば、よろしいですか。

では、続きまして、予算決算委員会で具体的に何をしていくかというお話をさせていただこうと思います。めくっていただいて令和6年度第4回予算決算委員会の資料が配られているかと思います。委員会テーマと内容については前回お示ししたとおりです。今日ご覧いただきたいのはスケジュールからその下についてです。

まずスケジュールについてです。ペラペラとめくっていただくと、令和6年度の事業評価のスケジュールをつけさせていただいています。これが課長ともちょっとお話をさせてもらって、前任の委員長ともお話をさせてもらった中で、何とか9月27日に事業評価書と、要望書を提出したいと思ひまして、そこから逆算してスケジュールは組ませていただきました。

大枠昨年の予定から1週間から10日ぐらい圧縮したというか、もう期間を詰めてやっております。一番省略をさせてもらったのはスケジュールの中でも、いつも事業評価の項目を決めるときに1か月ほど時間を要していたと思うんですが、その時間を削ったというかですね。なるべく少なくして、その時間を調査研究であったり、ほかのことに充てようということでスケジュールをつくらせていただきました。どうやって事業を決めるかという話になると、今回、ほかの二つの委員会がおのこのテーマを決められて臨まれるということなので、事業面については各委員会が当然そのテーマに沿って活動されると思うんですけど、我々はその各委員会が設定したテーマについて、予算面から事業を見させてもらうということをしたなと思いました。

ですので、そのテーマに準じた事業を事業評価の対象項目とさせていただこうと思っています。これも次の項目に入ってるんですけど、基本的に直近に評価した事業と重複する可能性もあります。それを御承知おきいただきたいなと思います。

ただ、やっぱり各委員会が設定したテーマに準じた形で事業評価をさせていただきたいと思っていますので、なるべく重複しないように配慮はするつもりですけど、もしかすると重複する可能性もあるってということだけ御承知いただきたいなと思っています。

各委員会がつくられているテーマの中から二つから三つぐらいの事業評価の対象事業を絞らせていただこうと思っています。それ以外にもうちの委員会が必要と思われる事業については、事業評価の対象とさせていただこうと思っています。対象事業の選定は大体6個から9個を予定しております。昨年よりなるべく少なくしたいなと思っています。

これで今のところスケジュールと対象事業の選定まで御説明させていただいたところですが、何か質問があれば承りたいなと思いますがよろしいですか。

では、このような格好でスケジュールは昨年はちょっときついかもしれないですけど、皆さんに提出書類などもあるかと思いますが御協力いただいて、事業評価の対象事業については各委員会のテーマに基づいた事業評価させていただく。プラスうちの委員会で独自で決めさせていただくという形を取らせていただきたいなと思います。

続きまして、事業評価シートについてです。

評価シートの後ろに付けさせていただいてますスケジュールの後ろです。これは昨年度の事業評価シートです。その後ろに令和4年度の相対評価、総合評価と一つ見本となるものが1個付けさせていただいておりますが、大枠はこのシートを利用して評価をしていただく予定をしています。これは変えようかなとも当然思ったんですけど、あまり頻繁に変え過ぎると採点基準が煩雑になってしまう恐れがあるなと思っておりまして、なのでなるべく変えないほうがいいかなと思ひまして、この評価シートは去年のものを引き続き流用するような格好で考えております。

その上で今回は、新しく予算要望に関する皆さんの御意見も頂きたいなと思っておりますので、その欄を新設させていただいて、事業評価シートを皆さんに配付させていただこうと考えています。

評価シートについては、これぐらいですか。評価シートについてですけど、今回他委員会となるべく連携して事業評価を行いたいと考えておりますので、評価シートについてはなるべく早い段階で皆さんにお渡ししたいなと思っております。委員会活動の間でも評価シートに文字を書き込めるようにしたいなと思っておりますので、4月中ぐらいには評価シートを皆さんのお手元にはお届けできるかなと思いますけれど、皆さんにお届けしたらもう随時委員会活動のために書いていただける書き込みができるようにしていただきたいと思います。

評価シートの提出期限というのを書かせてもらっているんですけど、7月29日になるかと思いますが、何とかそれまでに事業評価を半年、3か月ぐらいかけてつくっていただくというふうなことになります。

最後の段落に移ります。

各委員会との連携についてです。総務厚生学教委員会と地域経済建設委員会は、事業の理解を深めるため、テーマを定め視察研究を行われます。当委員会は両委員会が定めたテーマを予算面からも評価研究できるよう連携したいと考えています。予算要望についても、3常任委員会の意見をまとめて議会からの提言とすることが理想ですが、予算編成期に合わせる場合、スケジュール的に厳しいことも考えられますので、そのときは委員会ごとに要望書を作成して提言する可能性もあります。

そういったときでも事業評価はスケジュールどおりに提出する予定です。

また、広報広聴委員会には、広報広聴両面で御支援いただきたいと思いますと考えておりますので、御協力をお願いします。今年はなるべく委員会と連携する中で議会としての予算への要望が出していけるといいなと思っておりますが、各委員会の活動も当然ある中で、全ての委員会を尊重しながら進めていきたいということもありますので、ある程度時期的にずれてしまうこと、可能性というのはあるかなと思っております。

ただ、来年度の予算への要望するということになりますと、やはり10月の頭ぐらいまでには市長のところに予算要望書を提出するのが理想でありますので、そこを目的に予算決算委員会としては活動をしていきたいなと思っております。

そこでほかの委員会が、両委員会がそこに何とかスケジュール的に合わせていただけるのであればやっぱり一緒に出させていただくのが理想だと思いますが、それはちょっと難しいこともあるのかなと思う中で、ずれる可能性もあるので、そのときは予算決算委員会のみで出す可能性もあるということだけ御承知おきいただきたいなと。

何とかははじめの一步で取っ掛かりをつくりたいというところもあって、最終的には出した要望書に対する市長からの回答書を頂きたいと思っております。回答書を僕らが要望したことに対して市側がどのように考えているかいうのを回答を頂いて、それを受けてやっぱり3月の予算のときに、それが反映されているのかどうかというのをチェックできるというのが、予算決算委員会としては理想とするところかなと思っておりますので、そういったサイクルをつくるということも、今年1年意識しながら活動していきたいと思っております。

何か御質問があれば。

14番 熊谷委員。

○14番（熊谷隆男君）

事業評価については市長に報告をすると、それでは、予算要望とは違いますよということ。

○委員長（棚町 潤君）

一応、基本的に一緒に出す予定です。

○14番（熊谷隆男君）

仮に言えば、予算要望を出すというときに、今の話だと常任委員会で検討しなさいよと、そうすると、予算決算委員会は事業は全部やからどっちにもかぶさるわけで、逆に言うと予算決算で出そうとしたら、どっちかの委員会のことに関しての事業になるわけよね。全く違う事業あらへんわけやから、それはやっぱり僕は取りまとめをする方向で、各委員会で出すということかというと、それを予算決算が言うことではないと。常任委員会からこれが注目するで取り上げてほしいわということとは、予算決算に言ってみんなで審議するというような流れでないと、もし普通の常任委員会を使うとすれば、総務何とからこれ要望でというのを仮に検討してもらうと。やっぱりそれは予算決算でほかのもう一つの地域何とかも含めたみんなで協議、もむというのが予算決算は全体でということ等の線は崩さないほうがいいような気がする。

○委員長（棚町 潤君）

当然、足並みをそろえるというのが一番難しいなと思ってまして、既に委員長とも話をさせてもらってるんですけど、やっぱり委員会のスケジュールがある中で視察だったり、勉強だったり研究のスケジュールの中で要望を合わせていく、9月27日に合わせていくというのが、なかなか難しいかなと思っておったんですけど。

○14番（熊谷隆男君）

もう一つ、各常任委員会が三つ出して予算決算は予算決算で出して、そういうのはインパクト的にも総論的で何となくあまり練った感がなくて、ただ単に羅列した感じになるので、ある程度これはとか、一回出したものを次の年にというのはなかなかそれまた言いにくいことが起きると言うと、もうこれはというのはある程度審議のほうの方が大事で、なおかつ、物すごく削減してほしいという要望なのか、物すごく増やしてほしいのか。少し増やしてほしいとか、気持ちでいいからとかは実に曖昧なことになるので、やはり議論の中で提出するときにこういう思いでこれをもっとつけてあげたいとか、これ削減したほうがいいのではないかと。大体削減したほうがいい。大体のつくところの議論をしないと、出すは出したの形だけでなんとなく相手に伝わりにくいような気がする。ある程度絞っていただいて、それについて議論するほうに時間をとったほうが、出すまでに時間をつくるということではないほういいような気がするんだけど僕は。

○委員長（棚町 潤君）

今のお話ですとやっぱり両委員会があるんですけど、委員会が所管するところに関しても我々の委員会が話をしていくということですよね。

○14番（熊谷隆男君）

要は、委員会といっても、議決議案の取り扱い、予算ははじいているわけやから、出たものについて条例改正であるとかになってくるわけやね、その議論する委員会自体が、そこにもって予算に関する要望を話す機会というのは、どこでピックアップするかということやね。全部を見直すわけでもないの、その委員会でやっぱり予算決算の中で見直しを。決算をやって認定をする際に事業評価をやったときに、逆に違うところから出るかも分かんけれども、その事業評価に出たところで必ずしも予算要望があるとか、みんな満点かも分かんわけやね。そうすると、予算決算が取りまとめるだけで俺はいいような気がするけれどな。意見を聞くことは、これについてどうですかと出たものについて議論の場をつくってくださいということはいいかもしれんけれども、やっぱりその予算要望ということになってくると、事業の要望ならまた別なんやけれど、お金のことに關して要望で言うのなら、やっぱり予算決算がやって。事業のこれについてとか、そういうことに関してはもうちょっといいやり方があらへんかとか、これはもうちょっと日にち変えたほうがいいやないかとか、そういうようなことに関しては常任委員会でいいと思う。常任委員会に気を遣い過ぎとるよ。

○委員長（棚町 潤君）

それは気を遣います。やっぱり自分の予算決算のこの事業の枠ということを考えて、そこから逸脱しないようにというのを最初に考えたところだったんです。なので、やっぱり事業があるから予算があるというふうに私は考えているので、事業の評価をする中で予算面からは僕らは見させてもらって、それに対して予算要望に反映させていきたいなと思っておりますけれど、やっぱり事業内容に関しては委員会が当然主となって調査研究してもらふべきところかなと思っておりますので、なので逆に我々ができることというのはそのバックアップをして、サポートして、予算面から調査研究をサポートするということ。

○16番（柴田増三君）

それぞれの委員会、常任委員会が研究されている中で、重要な部分があるなと思ったらもう委員長判断でやって進めてもらえればいい。今まで委員長、副委員長で大体決めてきとるんで、そういう形でいいと思うよ。みんなの視察等待っておって決めたら全然進まへんやん。

○委員長（棚町 潤君）

小木曾委員。

○11番（小木曾光佐子君）

結局さっきの常任委員会各二つの委員会に任せるというのは、事業評価を何にするかということその委員会のテーマに沿ったものを挙げてもらうという部分ですよね。それはそれで挙げてもらう中で、予算委員会は挙がってきたものでこれに対して事業評価しながら、もっとこれには予算をつけるべきだというような話し合いになるのか、これはもっと予算下げてこんなにお金使う必要はないのではないかということをやっていくと、予算要望ができるのではないか。それはさっき熊谷議員が言われたことだと思うので、予算決算はあくまでもやっぱり金額というか。お金のことを見る委員会だと思うので、最初に委員長が言われたように、20人の中からかテーマにすることを事業評価として出してもらって、それを予算、全員で事業評価していくという今までのスタンスをそこは変わらないと思うんですけど。

○委員長（棚町 潤君）

そこから一步進んで、予算の要望につなげると。

ありがとうございます。その方向でいいですか。

では、ぜひそんな方向で考えさせていただこうかなと思います。

ほかに質疑。

○12番（成瀬徳夫君）

これを見ると、事務局はどうやっているんだ。これやっぱりあまりよくないと思うよ。この事業評価の提出依頼執行部に依頼。これは委員長がやらないといけない。上から二つ目。それから、下の各委員からの評価の取りまとめで結果作成。これなんか委員長がやるのか、委員長、副委員長が、なんでこれ事務局を通さないといけないんや。

○委員長（棚町 潤君）

昨年度踏襲させていただきました。

○12番（成瀬徳夫君）

これもやっぱり事務局に任せっ放しになっている。これは良くないと。事務局に協力してもらうことだけれど、事務局にお願いしたというのはあんまりよくないと思うけれど。

○委員長（棚町 潤君）

柴田議員。

○16番（柴田増三君）

結果的に決めているは予算決算委員長と副委員長でやっとなるんやけれど、ただ、事務的な手続と

してその執行部にお願いしてもらっただけの話やもんで、こっちから直接出すわけではないもんで、その話やで。

○12番（成瀬徳夫君）

だから、許可が出れば委員長が見てやらなあかんよということ。

○16番（柴田増三君）

要は、事務局を通さないとやれへんことやで。

○14番（熊谷隆男君）

ここの表なんかなかなかつけれないわけよ。表計算というて、俺は議員のあれの予算決算委員長もやったけれども、これは色だけね、要は見て市長に説明するときでもみんながどえらい注目しておって言いたいのはこれだよと分かるような。あとは見せるところなんかどこもないねんで、議員が見るだけで。市長に分かりやすくそのときに説明してもらうためには、議長からも言ってもらうのには、この真っ赤っかのやつをみんな心配しとるやつですよとか。そういうことを説明するに至って出すということや文言で各課にいう評価のときがあるから、あれはやっぱりあの辺はやっぱり議長が言われるように、事務局がつくると付度が入るかもしれない。

○16番（柴田増三君）

委員長が最後まとめて出すもんで。

○14番（熊谷隆男君）

委員長でやってもらうやろ。

○委員長（棚町 潤君）

非常に大きなミッションを頂いたと思います。

○15番（加藤輔之君）

恐らく委員長、物すごい事務量だと思う。前やりましたけれども、本当に6時、7時まで課長も含めてやりおったので、結構な仕事やで。

○委員長（棚町 潤君）

副委員長、一緒に頑張りましょう

要は、みんなの意見をどうまとめるかだけの話ですよ。

ありがとうございます。なるべく事務局に負担をかけず、働き方改革を考えながら頑張らせてもらいたいと思いますので、よろしくお願いします。

よろしいですか。

では、ほかに質疑もないようですので、質疑を終結させていただこうと思いますが、特にほかに御意見はございませんので。

○8番（樋田翔太君）

一点よろしいですか。監査委員の決算委員会の出席等なんですけれども、基本的に監査委員は決算委員会で物事が言えない立場なんで、出なくてもいいという言葉はあれなんですけれども、出てただ座

っているだけだったら別に必要ないのではないかということを前に考えまして、少し考えてほしいなと思います。

○委員長（棚町 潤君）

ここで話をしているのかちょっと僕も分かりかねますが、議運になるかなと思うんですけど。

そうですね、なかなか監査委員としてはいらいらするところもあるので、そこら辺はすみません。次の回もありますので、では、これにて委員会は終了させていただきますのでよろしくお願いします。

また、次回の委員会御案内を差し上げますので、そのときは御参集いただきますようよろしくお願いします。

それでは、お疲れ様でした。

午前11時27分 閉会